



長崎雑学

大航海時代、キリスト教の伝来とともに開かれた長崎。
江戸時代には日本で唯一西洋に開かれ、海外の文化や学問などを全国へ発信。
新しい「知」に触れようと、志ある人々が集い、多くの学者やエンジニアを育みました。
さまざまな文物の「伝来の地」で、「日本初」と称する出来事もいろいろある長崎。
そのほんの一部をご紹介します。

参考 / 「長崎県の日本一、世界一」(長崎県) 長崎游学の標(長崎文献社) ながさきことば(長崎文献社) 長崎歴史文化観光検定公式テキストブック(長崎商工会議所)

加工食品 編

異国情緒の味、白カステラ
【パン】
パンは、南蛮貿易時代にポルトガル人から製法が伝わり、長崎の街角でも焼かれていた。江戸時代には、出島のオランダ人が常食。当時、全国から長崎にやってきた人々は、「白カステラ」と呼び珍しがったという。

欧米から製法を伝授
【ハム】
江戸時代、出島ではオランダ人がハムを食べていた。当時の日本語では「塩漬豚」「臘乾」などと記されている。日本初のハムの製造業は明治5年(1872)オランダ船のクックから製法を習った浦岡福松、アメリカ人から習った片岡伊右衛門などが長崎ではじめている。

きっかけは、フランスの牛匠
【缶詰】
長崎の外国語学校「広運館」に勤務していた松田雅典は、フランス人教師のレオン・デュリーが本国から持ち込んだ牛匠に驚き、缶詰の製法を習う。明治2年(1869)日本で初めて試作品を製造。後に生産を開始した。

はじまりは、キリシタンの里
【パスタ】
遠藤周作の「沈黙」の舞台として知られる長崎市海外地区。明治時代、この地域に赴任していたフランス人宣教師のド・ロ神父が、マカロニの製法を人々に伝えたのが日本で最初のパスタと言われている。



野菜 編

カンボジアから来たカボチャ
【カボチャ】
南蛮貿易時代、ポルトガル人がカンボジアから長崎に伝えた。ポルトガル語でカボチャを意味する「アポブラ」が訛り、九州ではポウブラとも呼ばれる。



隠元禅師と一緒に渡来
【インゲン豆】
唐僧、隠元禅師が承応3年(1654)長崎へ渡来した際もたらしたといわれ、名前の由来にもなっている。荒れ地にも育つので、飢饉のときなど大いに人々を助けた。

果肉の赤が恐かった!?
【スイカ】
種子を南蛮貿易時代にポルトガル人がもたらしたとも、隠元禅師がインゲン豆と一緒に持参したとも伝えられる。当時の日本人には、果肉の赤が血の色のようにだと敬遠されたとか。



別名オランダイモ
【ジャガイモ】
北海道に次ぐ第二位の生産量を誇る長崎県は、伝来の地。16世紀後半、ポルトガル船がジャガタラ(ジャカルタ)経由で、長崎へ運んできたなどの説がある。長崎ではオランダイモとも呼んだ。



スポーツ 編

出島で楽しむ西洋羽子板
【バドミントン】
出島のオランダ人たちの風習などを紹介した「紅毛雑話(1787年刊)」に、ラケットとシャトルコックによく似た絵が描かれている。また、江戸時代の「漢洋長崎居留図巻」にもバドミントンらしき遊びをする人物が描かれている。



居留地の外国人の社交場
【ボウリング】
文久1年(1861)6月22日、長崎の英字新聞に、居留地に「インターナショナル・ボウリング・サロン」が開設されたという広告が出た。これが日本初のボウリング場で居留地の外国人たちの社交場であった。



日本最古のコース
【パブリックゴルフ場】
風光明媚な雲仙岳を見渡す雲仙ゴルフ場は、大正2年(1913)に完成した日本初のパブリックゴルフコース(9ホール)。当初、ワラびきのクラブハウスがあったという。

建造物 編

350年以上の長寿橋
【眼鏡橋】
二つのアーチが水面に映ると、まるで眼鏡のようだから眼鏡橋という。寛永11年(1634)長崎興福寺の唐僧、黙子如定が架けた日本初の二連アーチ構造の石橋。昭和57年(1982)の長崎大水害で半壊したが、復旧。国指定重要文化財。



幕末の志士らをかくまった!?
【グラバー邸】
文久3年(1863)英国の商人トーマス・グラバーが建てた。庭園を擁した和洋折衷の住まいで、現存する木造洋館としては日本最古。屋根裏部屋は、幕末の志士の隠れ場になったといわれる。国指定重要文化財。



高島炭鉱のコールタールで舗装?
【アスファルト道路】
グラバー園内に日本最古といわれるアスファルト道路が残っている。舗装の経緯は定かでないが、明治初期、トーマス・グラバーが当時経営した高島炭鉱のコールタールを使用したという説がある。

幕末の志士 編

咸臨丸で太平洋横断
【勝海舟 / かつかいしゅう】
政治家・幕府海軍創設者。長崎海軍伝習所の頭取として長崎に派遣され、オランダ人に海軍諸術を学ぶ。榎本武揚や坂本龍馬など多くの人材を育てた。咸臨丸での渡米や江戸城無血開城などで知られる。



早稲田大学の設立者
【大隈重信 / おおくまいげのぶ】
明治・大正期の政治家。佐賀藩の下級武士として生まれ、幕末の長崎でオランダ人フルベッキに英語をはじめさまざまな学問を学ぶ。幕末から明治にかけて長崎へ度々赴いた。

幕末の風雲児
【坂本龍馬 / さかもとりょうま】
土佐藩の下級武士だったが、のちに脱藩。勝海舟と出会い、門人になる。幕末、長崎で亀山社中(後の海援隊)を結成し、海運貿易業を興す。大政奉還の画策など新時代の到来に向けて活躍した。



学者 編

江戸時代のアウトロー
【平賀源内 / ひらがげんない】
博物学者・文人。発明家でもあり時代に先駆けた奇人として知られる。宝暦2年(1752)長崎を訪れ、オランダ語などを学ぶ。その後、再び長崎を訪れ、オランダ通詞から手に入れた発電機エリケテルの復元に成功。当時は医療用に使われた。



解体新書を翻訳
【前野良沢 / まへのりょうたく】
蘭学者。中津藩(大分県)の侍医。明和7年(1770)長崎へ、オランダ解剖図譜「ターヘル・アナトミア」を手に入れ、杉田玄白らとともに翻訳、「解体新書」として世に出した。



お江戸でオランダ正月
【大槻玄沢 / おおつきげんたく】
蘭学者。長崎を訪れ、オランダ通詞から広く学ぶ。江戸にもどると、蘭学塾を開いた。長崎で見たオランダ正月を模した新元会(太陽暦による元旦の祝宴)を、江戸の蘭学者を招いて催した。